

コミュニティ・スクール情報

目標やビジョンの共有、課題解決のための「熟議」

学校と地域の人々がビジョンや目標を共有し、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」運営に備えるべき機能として、「熟議」「協働」「マネジメント」の3つがあります。

学校運営協議会は、学校と地域が目標やビジョン、課題、情報等を共有し、意思を形成する場であり、学校と地域が相互に連携・協働していくための基盤となります。

熟議

熟議とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決をめざす対話のことで、活発な議論により、的確に多くの人の意見を反映することができます。

関係者がみな当事者意識を持ち、子どもたちがどのような課題を抱えているのかという実態を共有するとともに、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという目標・ビジョンを共有するために「熟議(熟慮と議論)」を重ねることが大切です。

○「熟議」の具体的なプロセス

目標やビジョンの共有

- ①多くの当事者(保護者、教職員、地域住民等)が集まり、「学校や地域の課題」を共有し、
- ②そのことについて学習・熟慮し、議論をします。



具体的実践へ

- ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まります。
- ④それぞれの役割に応じた解決策が洗練されます。
- ⑤それぞれが納得して自分の役割を果たすようになります。

○「熟議」のテーマ例

- ・子どもたちがどう育ってほしいか
- ・いじめを防止するには
- ・学力を向上させるには
- ・あいさつ日本一の町をめざすために
- ・携帯電話、スマホの取扱いについて
- ・地域に貢献できることは何か
- ・学校と地域と一緒にやれることは
- ・教育に地域の力をどう生かすか
- ・下校時の安全をどう確保するか
- ・学校と地域の合同運動会について
- ・子どもたちに郷土学習で何を伝えるか
- ・放課後の安全対策について

コミュニティ・スクール研修会（熟議体験）

今年度のコミュニティ・スクール研修会は、熟議体験をとおして、「日野町の未来を担う子どもたちを学校と地域とで育てるために」何ができるのかを考えています。

- 【第1回】 8月22日（水） 対象：教職員、学校評議員、学校関係者評価委員
- 【第2回】 9月 1日（土） 対象：日野中PTA
- 【第3回】 9月22日（土） 対象：根雨小PTA
- 【第4回】 10月24日（水） 対象：黒坂小PTA
- 【第5回】 12月11日（火） 対象：地域住民等



○「願い」から「解決策・アクションプランへ」

熟議により、「めざす子ども像」を共有し、現状把握、課題確認、そして解決策・アクションプランを練っていきます。そして、アクションプランをそれぞれが当事者として実践していきます。

熟議テーマ「地域みんなで子どもたちの未来を考える」

《願い》		《現状》		《課題》		《解決策・アクションプランへ》	
①《ビジョン》「目指す子ども像」		②現状の姿		④課題(学校)		⑤アイデア・手立て(学校)	
①(学校) 共有 進んで学び 自らの生きる 道を拓く	☆(学校・家庭・地域のそれぞれの立場の思いを参加者で共有する)	②現状の姿 機物的 問題意識 低い	③問題 主体性	④課題(学校) 主体的に取り組む 姿勢と 将来のビジョンを もつこと	⑤アイデア・手立て(学校) 特別活動の場を 地域・家庭に 広げる。	☆(学校・家庭・地域が一緒に出来るアイデア) 三者が 話し合い 場をつくる。	⑥対応の時期 ☆(優先順位1)
①(家庭) 休日学校へ 行く子		②現状の姿 休む	③問題 過保護 放任	④課題(家庭) 問題意識の低い あたりにも、まじに い。	⑤アイデア・手立て(家庭) 学校・地域で 何でも言える場と 雰囲気。		⑥対応の時期 ☆(優先順位2)
①(地域) 活性化、 地域へ広がって		②現状の姿 地域活動 への参加	③問題 児童数 減	④課題(地域) 学校・教育委員会 への関わり方が わからない。	⑤アイデア・手立て(地域) 地域リーダー(若手) の育成		⑥対応の時期 ☆(優先順位3)

<第1回研修で参加者が書き込んだフォーマットシート>

第1回研修会 対象：教職員、学校評議員、学校関係者評価委員

8月22日に開催した研修会では、町内小・中学校の教職員と、それぞれの学校の学校評議員、学校関係者評価委員が一緒になって熟議を行いました。熟議のテーマは、「地域みんなで子どもたちの未来を考える」と設定しました。

フォーマットシートにのっとして、最初に、学校、家庭、地域それぞれが「めざす子ども像」を出し合い、それを共有しました。その後に、「めざす子ども像」と照らし合わせての現状を把握し、問題点を探りました。それから、それぞれの立場で課題を見出し、

どのような手立てが必要かを考えました。考え出された手立てについて、一緒にできることを話し合い、最後に、優先順位を付けていきました。

短い時間で、最後の優先順位を付けるところまでいかなかったグループが多くありましたが、熟議により、アクションプランを策定していく体験をし、熟議の有効性を認識しました。



第2回研修会 対象：日野中PTA

9月1日には、日野中学校PTAを対象に熟議体験の研修会を開催しました。

この研修会では、今年度実施した全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果から、熟議するテーマを各グループで見つるところから始めました。

子どもたちを育てるためには、まずは、「子どもたちにはどんなよいところがあるのか」「どんなところに課題があるのか」等を様々な情報をもとに共有することが必要です。みんなで共有したことにより、「めざす子ども像」が明らかになっていきました。



第3回研修会 対象：根雨小PTA

9月22日には、根雨小学校PTAを対象に熟議体験の研修会を開催しました。

この研修会では、熟議テーマを「規則正しい基本的生活習慣についての家庭の役割」「家庭学習の定着に向けての学校と家庭との連携」「家庭でのテレビやゲームの時間などのルール」の中から選択してもらうかたちで行いました。今までにも、様々な研修会や懇談会で話題となっていたテーマではなかったかと思われそうですが、あらためて学校、家庭、地域それぞれの視点から課題をとらえ、そして解決策を共有していく熟議を行い、新たな気づきもあったようです。



コミュニティ・スクールを導入すると… part2

コミュニティ・スクールでは、保護者・地域住民等が学校運営や教育活動へ参画することで、自己有用感や生きがいにつながり、子どもたちの学びや体験が充実します。

(例えば・・・)

- 自分の経験を生かして、学校や子どもたちをサポートしたいが、迷惑にならないか。
⇒多くのおとなの専門性や地域の力を生かした学校運営や教育活動が実現します。
- 地域の人々の思いや考えに触れる機会がなかなか得られない。
⇒学校が社会的なつながりを得られる場となり、地域のよりどころとなります。
- 地域人材を活用した学習がどれもイベント的な取組になっている。
⇒地域住民等の考えや地域の特性を生かすことで、学校での学びがより豊かで広がりを持ちます。

コミュニティ・スクールでは、保護者・地域住民等と学校が“顔が見える”関係となり、保護者や地域住民等の理解と協力を得た学校運営が実現します。

(例えば・・・)

- 価値観の多様化により、学校の運営方針や諸課題について厳しい意見が多い。
⇒学校の現状や運営方針について理解が深まり、地域が学校の応援団となります。
- 保護者や地域住民から、様々な要望があり、その対応に追われてしまう。
⇒学校・家庭・地域の適切な役割分担により、教職員が子どもと向き合う時間の確保につながります。

他にも、こんな効果が期待されます。

⇒大規模災害時等、緊急な対応が必要な場面においても、学校と地域が一体となり、迅速かつ組織的な対応ができます。

『コミュニティ・スクール 2017 ～地域とともにある学校づくりを目指して～』（文部科学省）より引用

「第5回コミュニティ・スクール研修会」のご案内

コミュニティ・スクールについて町民の皆様にご理解いただくために、研修会を開催します。お忙しいとは思いますが、多くの皆様にご参加いただきますようご案内申し上げます。

- 1 日 時 平成30年12月11日(火)
19:00～20:30
- 2 場 所 日野町山村開発センター 大集会室
- 3 内 容 講義と熟議体験
講師：梶原敏明先生 (文部科学省コミュニティ・スクール推進員)
熟議テーマ：防災について(仮題)
- 4 申込等 申し込み、入場料は不要です。お誘い合わせしてお出かけください。